

BIOLOGICAL EXCITATION, ATTRACTION, AND LUMINATION DEMONSTRATED USING THE "DIVINING ROD" AS AN INSTRUMENT OF SCIENTIFIC RESEARCH

生物学的励起（引力）と、LUMINATION は、科学的な調査器具として「ダウジングロッド」を使用可能であることを明らかにした

多世紀の間、地面の隠された帯水層または水源の発見は、自然科学の分野で特別な位置を占めてきた。

一方、「ダウジングロッド」の使用は、あざけられ、「物理現象の厳しい客観的な研究者」によってナンセンスで神秘的なもの、または大ぼらとして軽蔑された。

まじめな科学者はダウジングロッドについて、主張したことを、おとぎ話として信じなかった。

他方、農民と鉱夫が水の泉を「不思議な」ダウジングロッドを使って発見してきたのは、広く既知の事実だ。

占い棒は実際問題として「物理学の精密科学」がこれまで達成できなかったことができる、すなわち、それは地面で水を発見することができる。

この事実に対して疑問はない。

それは必要になった時の、実践的な測定結果です（漠然とした理論ではない）。

第一次世界大戦の間、ダウジングロッドは乾いたカルスト台地でよく使用されていた。

第二次世界大戦の間、英国英国空軍は、ダウジングロッドを使って大成功したと言われている。

しかし、ダウジングロッドで泉が見つかる背後に存在する原理とメカニズムはミステリーのまま、大ぼらと神秘的なペテンが含まれると常に思われてきた。

しばらく前に、オーゴン物理学はダウジングロッドの機能を理解する方へ重要な貢献をすることに成功した、そして、今この達成を解説しよう。

私は、ダウザーに Orgononz に来るよう依頼した。

この人には、神秘主義者を示す特別な特徴は少しもなかった。

彼は、ずいぶん昔に農民の妻から技能を身につけた、そして、彼が地下の泉を見つけるために長年の間これを使用してきたと私に話した。

彼は、このサービスのために決してお金を徴収しなかった。

彼は、表面から下、15 フィートより浅いどんな帯水層も見つけることができると主張した。

私は彼にテクニックを見せてくれるよう頼んだ、そして、古い井戸のそばの近くに、彼を連れて行った。それは現在は覆い隠されていた。

彼はリンゴの木からのV字形の枝を切って、V字型の先端を上へ示して、手でそれをほぼ胃

と同じ高さに持った。

井戸に接近したとき、持ったまま自由に動く先端は体の方へ大きな力で回った。

男が枝を握り保持するのに苦心しているのは、明らかだった。

私は神秘的な何かが起こっているのを感じたと認めなければならず、それが何か、私には理解できなかった。

(メイン)の **Rangeley** のライヒの家と研究所の領域でどのようにダウジングロッドの枝は曲がったのだろうか。

水に原因するのだろうか？

私の質問に答えて、男は良い結果を得るには木から新しい枝を切らなければならないと述べた。

枯れたような古い枝では、機能しない。

最初、私は枝が水の近くの地面の方から引きつけられたと思った。

これは、後で誤っていることがわかった。

木の枝によって水が見つかる様に見えるがこの間違っただけは現象の神秘的な特徴を、際立たせる。

ここメインで、農民が水を見つけたダウジングの方法を説明すれば、この技術の、宗教的神秘主義的な解釈をより明確なものにする。

研究所の給水パイプが地面に深く埋められた 5 フィートの地域の上を、私はダウザーに歩いてもらった。

パイプが走っている正確な点で、この時、力強くはないけれども、枝は地面の方へ曲がった。

男は、トランスまたはこれに似た状態の兆候を少しも示してはいなかった。

彼は、非常に慎重に枝に集中しているだけだった。

そして、彼は手に占い棒を持って、研究所の近くの土地の上の一部をあちこち歩いた。

特定の点で、枝は地面の方へ曲がった、そして、枝が示す方向に、男は続いて歩いた。

男が持つことがほとんど不可能になるまで、ますます活発に枝は動き始めた。

それから、彼は明るく、言った：

「この地点の 15 フィートの深さ以内に、水がある。確認できるはずだ。」

占い棒はすでに二回も水の存在を示していたので、

私には、今度も同じ様にこの人が正解を出したことを疑う理由はなかった

その時、私は言われたように正確に、私の手に占い棒を持った。

それからアップダウンしている同じ地形部分を歩いたが、私のアカデミックな懐疑論はすぐに消えていった。

私の手の中の枝が地面の方へいつもより大きな力でゆっくり回ったことに、疑念は、全くなかった。

私が地面に埋められた水道管を渡って歩いたときと、井戸に近づいたときに、同じことが

起こった、ただ、パイプの上のほうが、古い井戸に接近したときの力よりも弱かった。

私は、これがどうして可能か、理解できなかった。

しかし、30分後に、謎は解決した。

私は何度か手順を繰り返し、また、枝の位置を変えてみた。

ダウジングロッドを本来の位置に持ったとき、活発に動いた同じ地点でも、ダウジングロッドを体の側に持つと、反応しなかった。

枝の動きは、したがって、ダウザーの身体の位置と関係があった。

体の側面に保持された時のように、体からあまりに遠い状態で持った時、枝は弱く反応し、あるいは、全く反応しなかった。

胃と同じ高さで持つと、枝の先端の最も強い動きが、私の身に起こった。

この唯一可能な説明は、体の中心自体が枝を引きつけたということだ。

このようにダウザーの水の発見の原因は、枝の動きとは関係がない。

枝は、単にインジケータとして用いられるだけだ。

問題は、地面で水に反応するダウザーの有機体にある。

この反応によるならば、枝の動く先端が体の方へ、つまり水以外の方へ引きつけられるという事実を、説明する。

これでなぜ枝が地面を示すとき、常に体の内側の方へいき、決して体から離れて外へ回らないか、理解できるようになった。

私は、他の数人のテスター（研究所の研究者）に手順を繰り返させた。

1人のアシスタントは、完全に失敗した。

他の1人は枝を体から外に向かって回転させようとしたとき、手に弱い引く力と、外へ回転することへの抵抗を枝に感じた。

3番目と第4番目の人は枝が引きつけられたとき、両方とも太陽神経叢に変な感覚を経験した。

次の段階で、以下の結論に達することになった。

有機体と水は非常に **organotic** であり、2つの **organotic** なシステムで、有機体は地中の水の **organotic** な刺激に反応する。

organotic な刺激は、神経系の **lumination** の特性と同一である。

しかし、**lumination** は引きつける力の機能の発生に伴う。それは、放射している **bions** とオーゴン・アキュムレーターで非常によく知られている。

それは、なぜ枝が引きつけられるかという謎を解決する。

Diviner ダウザー

Divining Rod ダウジングロッド

Water 水

ダウジングロッドは、どのように機能するかの説明図

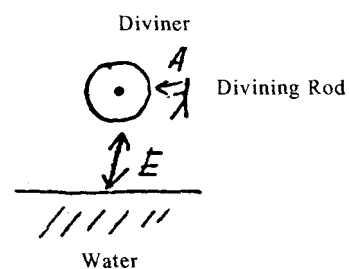


Diagram of how a divining rod functions

A 引きつける力

E 有機体と水との間の刺激

(参照 2 つの手の間を一緒にこすったときの、刺激とか、泉は、犬、馬、その他によって「感知される」)

まとめると：

1.

ダウジングロッドは、水の方へ進まず、ダウザーの身体に引きつけられる。

2. それは、ダウジングロッドでなく水に反応するダウザーの生命有機体に原因がある。

3. ダウザーの反応は生命有機体の身体のフィールドの引きつける力の増幅と共に発生する **lumination** に基づく。

4. 有機体と水は、互いに **lumination** に反応する 2 つの **organotic** なシステムである。

5. ダウジングロッドを引きつけて、反応する、探査する有機体は、**organotically** に非常に強くなければならない。

非オルゴンティックな武装した有機体は、オーゴン・フィールドがあまりに低下しているので、枝を引きつけることができない。

6. ダウジングロッドは、**organotically** に強くなければならず、引きつけるためには、生きたものでなければならない。

枯れた枝は、反応を起さない。

私のダウジングロッドの機能の仮説を検証するには、水のないところで、機能が再現できなければならない。

すなわち、私の説明が正しいならば、有機体が強いオーゴンアキュムレーターに接近するか、アキュムレーター内部に座るかして、2 つの **organotic** なシステムが互いに接触したとき、**lumination** に基づいてダウジングロッドの動作が生じて、同じ効果が発生する可能性があるはずだ。

私の予想は、確かめられた。

金属オーゴンの部屋に私が入ったとき、枝は私の体に引きつけられた。私がそれに座っていた時、または私が 20 倍のオーゴンアキュムレーターの外部から接近したとき、影響は疑う余地もなく、かなり強まった。

これは、私が既に知っていた **lumination** の主観的な感覚である暖かい波を経験したときはいつも、アキュムレーターの中の引きつける力の効果が特定の強度で現れ、私の解釈の正しさを更に証明した。

有機体の **organotic** な力は、オーゴン・エネルギー・フィールド・メーターの電球の **lumination** を使って測ることができる。

白熱フィラメントからの **lumination** は、有機体の **organicity** 度に比例する。

ダウジングロッドをもった我々の部下は、手の中のダウジングロッドの引きつける力の強

度に完全に一致してオーゴン・エネルギー・フィールド・メーターに最も強い **lumination** が生じた。

私の反応はいくぶん弱かった、そして、ダウジングロッドに反応が起きなかった人は装置に最も弱い **lumination** を発生した。これらの事実自身が正しさを明確に語っている。

ダウジングロッドの現象は、もはやミステリーではない。

その機能は、オーゴン生物物理学の理論と矛盾せず、完全に一致する。

ダウジングロッドによって地下水を見つけることは、自然調査の道具として有機体と器官感覚に、最も明るい光を投じる。

機能を科学用語で定め、説明することは、二番目に重要なことだ。

主なことは、生命体の中の「**orgonotic** な接触」の特性にある。

私は、これで、オーゴン生物物理学が科学的にダウジングロッドの機能を向上させることに成功すると思う。

例えば、**orgonicity** な効果と引きつける力を強めるために、まだ生きている枝をオーゴン水につけるという考えが浮かんだ。

結果は、有効だった。

多分オーゴン・エネルギー・フィールド・メーターでダウザーの **orgonicity** を決定し、より反応させるのに用いることが可能だろう。

ライヒは **Orgonon**、の研究所の部屋に造られた『大きなオーゴン・エネルギー・アキュムレーターについて』を言っている。

[Eds.J 『金属的なものと非金属の材料の 20 枚の層で造られたアキュムレーター。

『Cf. オーゴンの発見 (癌 **Biopathy**. 第 1 1 巻) 物理的なオーゴンの物質的な意味。

占いは、もはや神秘的な物ではない。

その機能は、現在ちょうど手の掌のオーゴン・エネルギーフィールドを使用して、**orgonotically** に強い有機体が自由に上に成長している屋内の植物の枝を引きつけることができるという事実とか、大気のオーゴンが湖と海から 1 年に何億トンもの水を引き上げることと、同じくらいよく理解できる。**lumination** と引きつける力の機能関係は、光の問題へ移行する。